

今回から、「助動詞の意味」を扱っていきます。

以前にも記しましたが、助動詞は主として用言に意味を付加する働きをします。どのような意味を付加するかで助動詞をグループ化すると、次のようになります。

- 1 受身 「る」「らる」
- 2 使役 「す」「さす」「しむ」
- 3 過去 「き」「けり」
- 4 完了 「つ」「ぬ」「たり」「り」
- 5 推量 「む」「じ」「けむ」「らむ」「べし」「まじ」「なり」「めり」「らし」「まし」
- 6 願望 「まほし」「たし」
- 7 断定 「なり」「たり」
- 8 比況 「ごとし」
- 9 打消 「ず」

助動詞は複数の意味を持つものが多いのですが、まずは、上記の九種類の「意味」の系統を押さえてください。次にそこに所属する助動詞を覚えます。その上で、各グループごとに理解していきます。また、共通する要素のある助動詞は、ペアにして押さえていくと効率的です。

## 1 受身 「る」「らる」

### ①受身[～れる、～られる]

〈例〉 姑に思はる嫁の君 〈訳〉 姑に大切にされる嫁

### ②尊敬[～なさる、～れる、～られる]

〈例〉 大井川の水をまかせられんとて 〈訳〉 大井川の水を引きなさろうとして

### ③可能[～できる、～れる、～られる]

〈例〉 つゆまどろまれず 〈訳〉 すこしもまどろむことができない

### ④自発[(自然と)～される]

〈例〉 風の音にぞ驚かれぬる 〈訳〉 風の音ではっと気づかされたことよ

「る」「らる」は、現代語の「れる」「られる」とほぼ同じと考えていいでしょう。

四つの意味の識別は、基本的には文脈から考えますが、ちょっとしたコツがあります。

③「可能」は、その多くが打消を伴って不可能（～できない）の形で出てきます。また④「自発」は心情を表す動作（思ふ、泣く、驚く、など）で多く現れます。これ以外は、主語が動作の主体となっている文なら②「尊敬」、主語が動作の客体（何かされる側）であれば①「受身」、ということを目安に見分けるといいでしょう。

## 2 使役 「す」「さす」「しむ」

### ①使役[～せる、～させる]



## b「けり」

### ①過去(伝聞過去)[～た、～たそうだ]

〈例〉あやまりにてなほされけり 〈訳〉間違ったということでお直しになった

### ②詠嘆[～だなあ]

〈例〉憂きに耐へぬは涙なりけり 〈訳〉辛さに耐えられないのは涙なのだなあ

a 「き」は自分で経験した過去を表します。また、過去の確実な事実にも使われます。

「き」は、「せ・〇・き・し・しか・〇」と、特殊な活用をするので注意が必要です。未然形は「～せば…まし」の反実仮想（英語で言うところの「仮定法過去」、後に詳述）の形でのみ出現、連体形「し」、已然形「しか」には気をつけておきましょう。例を挙げておきます。

〈例〉憂しと見し世ぞ今は恋しき 〈訳〉辛いと思った世の中が今は恋しい

〈例〉ゆかしかりしかど 〈訳〉知りたかったけれど

b 「けり」は「来・あり」が融合して生まれた助動詞で、何らかの思いやシーンが「やって来ている」ということを表します。従って、聞いた話を思い出したり（①「伝聞過去」）、はっと何かに気づいたり（②「詠嘆」）したときに使われます。ちなみに、「この本は千円だけ？」の「け」は、現代語に残った「けり」です。

「けり」は、地の文では①「過去」の用法が多く、和歌・会話文・心中思惟（心の中で思うこと）では②「詠嘆」が多くなります。

## 4 完了「つ」「ぬ」「たり」「り」

### a「つ」「ぬ」

#### ①完了[～てしまう、～た]

〈例〉雀の子を犬君が逃がしつる 〈訳〉雀の子を犬君が逃がしてしまった

〈例〉八十島かけてこぎ出でぬ 〈訳〉多くの島々を目指して船出した

※完了「つ」「ぬ」+過去「き」「けり」の形である「てき」「てけり」「にき」「にけり」は頻出するので注意。訳は「～てしまった、～た」。

〈例〉泣く泣く帰りにけり 〈訳〉泣く泣く帰ってしまった

〈例〉誓ひてし人の命の惜しくもあるかな 〈訳〉誓った人の命が惜しいことよ

#### ②強意[（てむ、なむ、つべし、ぬべし、の形で）きつと～]

〈例〉盗みもしつべきことなり 〈訳〉盗みもきつとするにちがいないことである

〈例〉あひ見るほどありなむ 〈訳〉再会する時がきつとあるだろう

①完了ですが、「つ」と「ぬ」は、実は微妙にニュアンスが異なります。それはこれらの助動詞の出自の違いに寄ります。

これは以前にも記しましたが、「つ」は「棄つ」（捨てる、の意）という下二段動詞の頭母音「う」が脱落して生じた助動詞です。例えば「追ひうつ→追ひつ」というようなイ

メージです。なので、助動詞「つ」は、「人が何かを捨ててしまう」→「人がある動作を終わらせてしまう」というニュアンスを持ちます。一方で、「ぬ」は「往ぬ」（行ってしまふ、いなくなる、の意）というナ変動詞の頭母音「い」が脱落してできた助動詞です。例えば「走りいぬ→走りぬ」というようなイメージです。そのため、助動詞「ぬ」は、「何かがいなくなってしまう→自然とある動作が終わってしまう」というニュアンスになります。

これを要約すると、助動詞「つ」は、人が動作を意図的に終了する「人為完了」、助動詞「ぬ」は、自然に動作が完了する「自然完了」ということになります。これを英語で例示するなら、

He has finished his homework. → has = つ

Spring has come. → has = ぬ

ということになるでしょう。実際、古文ではそのような使われ方がされていますから、確認してみてください。

なお、「完了」の口語訳ですが、基本的に「～た」と口語訳する方が多くなります。「完了」を強く打ち出したいときに「～てしまふ、～てしまった」と訳出します。

実は、現代語の助動詞「た」ですが、これは「過去」だけを表す助動詞ではありません。「完了」「存続」も表します。これは蘊蓄レベルの話なので、今回の最後に記します。

②の「強意」は、原則として「推量」の助動詞「む」「べし」が後接したとき、それを強調する働きを指します。口語訳として「きっと～」としておきましたが、口語訳が難しい場合もあり、また、「～てしまふだろう」「～てしまふにちがいない」と口語訳することもかなりあります。「強意」だということがわかっているならば問題はありません。要は、「動詞+つ・ぬ+む・べし」の構成の句が、「動作は・完結する（きっとそうなる）・と推量される」というように理解できていれば、それで十分です。

## b「たり」「り」

### ①存続[～ている、～ていた]

〈例〉女は思ひたれば 〈訳〉女は思っていたので

〈例〉八重むぐらしげれる宿 〈訳〉ひどく雑草が茂っている家

### ②完了[～た]

〈例〉京にて生まれたりし女子 をむなご 〈訳〉京で生まれた女の子

〈例〉よろづの言の葉とぞなれりける 〈訳〉あらゆる言葉となったのだよ

bの「たり」と「り」ですが、「り」の方が先に生まれました。以前にも説明したとおり、四段活用連用形+ラ変動詞「あり」、サ変動詞連用形+ラ変動詞「あり」から生まれのが助動詞「り」で、こういう経緯から、「り」が接続するのは四段とラ変の「e」音だと理解しておくで見分けやすいでしょう（咲け・り = s a k e ・ r i、せ・り = s e ・ r i）。

助動詞「り」は、四段とラ変にしか接続しないため、少々使い勝手が悪かったようです

(とはいっても、中古分ではかなりの数、見かけますが)。そこで生まれたのが「たり」です。これは接続助詞「て」にラ変動詞「あり」が融合してできました(t e・a r i→t a r i)。「たり」はすべての動詞に接続しますから、古文では頻出します。

さて、意味ですが、「完了の助動詞」とされる「り」も「たり」も、意味は基本的に「存続」でとります。「～ている(た)、～てある(た)」と訳しますが、この訳が文意としてしっくりこないときに、②「完了」でとり、「～た」と訳してください(例文を参照)。

ただし、「り」「たり」とも、「完了の助動詞」という概念で括られているので、入試問題などで意味を問うとき、選択肢に「存続」がなく、「完了」だけがある、ということもよくあります。これは「存続(～ている)も完了(～た)も、ひっくるめて、『完了』」という考え方だと理解して対応してください。

最後に、「り」は一文字助動詞の上、「ら・り・り・る・れ・れ」と、未然形～命令形のすべての活用形が存在します。なので文中での見分けに苦勞するかもしれませんが、用は「四段・サ変のe+ら・り・る・れ」が完了の助動詞「り」です。この原点を押さえておけば、十分に入試にも対応できます。

練習2 次の傍線部の助動詞の終止形を記し、次に意味を記せ。

- ①そのこと果てなば、とく帰るべし。(           ・            )  
②大井川に流してけり。(           ・            )  
③死にし子、顔よかりき。(           ・            )  
④昔、男ありけり。(           ・            )  
⑤いたう忍びたまへれど、(           ・            )

練習1・解答

- ①問ひつめられて、( らる           ・    受身            )  
②つゆまどろまれず。( る           ・    可能            )  
④口惜しと嘆かせたまふ。( す           ・    尊敬            )  
③よろこびながら加持せきするに、( さす           ・    使役            )

練習2・解答

- ①そのこと果てなば、とく帰るべし。( ぬ           ・    完了            )  
②大井川に流してけり。( つ           ・    強意            )  
③死にし子、顔よかりき。( き           ・    過去            )  
④昔、男ありけり。( けり           ・    過去            )  
⑤いたう忍びたまへれど、( り           ・    存続            )

今回はここまでにします。以下に、前回と今回の範囲の復習問題を掲載しておきますので、やってみてください。また、前回出題した補強問題の解答も掲載しておきます。参照してください。

頑張ろう、東高！

復習問題3 次の本文を読んで、以下の問いに答えよ。

また、男、しのびてしれる人①ありけり。人しげきところなれば、夜も明けぬ先に、人の静まれ②るをりにとて、帰りいでたるに、まだ暗きほどなれば、いかで帰らむと思へど、いと③かたかりければ、門の前に渡し④たる橋の上に立ちて、いひ入る。

夜半にいでて渡りぞかぬる涙川淵とながれて深く見ゆれば  
と、いひ入れたれば、女も寝でぞ⑤起きたりける。返し、

さ夜中におくれてわぶる涙こそ君がわたりの淵と⑥なるらめ  
男、いとあはれと思ひて、またもの⑦いひ入れむと思へど、大路に人などあり⑧ければ、  
立て⑨らで、帰り⑩にけり。

[話の概要]

ある男がこっそり通っている女がいた。人に見られないよう、夜明け前に帰ろうと女の家を出るとまだ真っ暗で、帰るに帰れず、橋の上にたたずんで、女に歌を贈った。

夜中にあなたの家を出たものの、渡りかねております、別離の涙の川が淵かと思われ  
るように流れて、とても深く見えますので  
と、読んだところ、女も起きていて、その返歌、

真夜中にあなたに去られて嘆く私の涙が、あなたが渡ろうとしている場所で淵となっ  
ているのでしょ  
男は感動して、また歌をやろうと思ったが、大路に人の姿が見えたので、ぐずぐずしてい  
ないで、帰ったのだった。

問一 傍線部②、④、⑧、⑨、⑩の助動詞の終止形・活用形・意味を記せ。

問二 傍線部①、③、⑤、⑥、⑦の用言の、活用の種類と活用形を記せ。

解答欄

問一	②	終止形		活用形		意味	
	④	終止形		活用形		意味	
	⑧	終止形		活用形		意味	
	⑨	終止形		活用形		意味	
	⑩	終止形		活用形		意味	
問二	①	活用の種類				活用形	
	③	活用の種類				活用形	
	⑤	活用の種類				活用形	
	⑥	活用の種類				活用形	
	⑦	活用の種類				活用形	

補強問題 2 A (用言の判断) 解答

1 傍線部の語を文法的に説明せよ。

- ①本意のごとく会ひにけり。 ( 動詞・ハ行四段・連用形 )
- ②行く川の流れは絶えずして、 ( 動詞・ヤ行下二段・未然形 )
- ③母の命尽きたるを知らずして、 ( 動詞・カ行上二段・連用形 )
- ④ある人、弓射ることを習ふに、 ( 動詞・ヤ行上一段・連体形 )
- ⑤ひがごとせん人をぞ、 ( 動詞・サ変・未然形 )
- ⑥死ぬることのみ、機嫌をはからず。 ( 動詞・ナ変・連体形 )
- ⑦とんで火に入る夏の虫。 ( 動詞・バ行四段・連用形・撥音便 )
- ⑧いと心にくからめ。 ( 形容詞・ク活用・未然形 )
- ⑨漫々たる海上なれば、 ( 形容動詞・タリ活用・連体形 )
- ⑩同じう死なば、 ( 形容詞・シク活用・連用形・ウ音便 )

補強問題 2 B (用言の活用) 解答

1 次の ( ) 内の動詞を適当な形に改めよ。

- ① 心なしと (見ゆ) 者にも、 ( 見ゆる )
- ② (悔ゆ) ても遅ければ、 ( 悔い )
- ③ 猛き者もつひには (滅ぶ) ぬ。 ( 滅び )
- ④ 沖より (寄す) 白波にも、 ( 寄する )
- ⑤ 尊くこそ (おはす) けれ。 ( おはし )

- ⑥ 先達は（あり）まほしきことなり。 （ あら ）
- ⑦ 聞きしにも（過ぐ）て、 （ 過ぎ ）
- ⑧ 山までは（見る）ず。 （ 見 ）
- ⑨ うるはしき花こそ、（めでたし）。 （ めでたけれ ）
- ⑩ （ならびなし）べきことなり。 （ ならびなかる ）